

事故防止・安全指導・災害対策

- ①子どもはその発達上の特性から事故の発生が多く、それによる傷害は子どもの心身に多くの影響を及ぼす。
事故防止は保育の大きな目標である。
職員は子どもの事故発生について認識を深めるための協力を求める。
- ②災害時に備えて職員その他の人たちによる組織づくりを行い、その役割分担などを認識する。

虐待対応

- ①虐待の保育現場における早期発見は保育活動中等、あらゆる機会に可能であるので、子どもの心身の状態や家族の態度など十分に注意する。
- ②発達障害や栄養障害、身体に不自然な傷、皮下出血、骨折、やけどなどの所見。
表情や情緒の問題など発達の遅れに気をつける。
- ③虐待が疑われる場合には、子どもの保護と共に家族の養育態度の改善に努める。
この場合、一人の職員や職員単独で困難な場合は園医・児童相談所・福祉事務所・保健センターなどの機関との連携を図る。